



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 15 号

令和 2 年 11 月 6 日 発行

文責 校長 宮地 浩幸

文化祭準備

10月27日(火)の午後に児童生徒6名と先生方で文化祭の会場づくり、及び展示品の掲示を行いました。この準備の様子を見てみると、これまで見てきた学校と全く違っていることに気づきます。前任校は、各学年3クラスの中規模校でした。生徒数は300人弱ですので、体育館一杯に、生徒の椅子及び保護者の椅子が並びます。かなりの数の椅子を並べますので、決められた時間の中で規則的に整った並びを作るために、指導する先生方の声が飛び交います。生徒たちはひたすら先生の指示に従うだけでした。本当に何か黙々と準備をしている様子が窺えました。勿論それはそれで、準備という目的を果たしますので、有意義なことだと思います。それに対して、本校では、6人の児童生徒が先生から、「ここに40椅子を並べてください。」と指示を受けるだけです。すると上級生が、「今年はソーシャルディスタンスを取らなければならないから」と言って間隔を空けようといすを並べ始めますが、何となく整列できていないのとどのくらい空けたらいいか迷います。そして、試行錯誤するうちに、上下左右に椅子1つ分ずつ空けていくと上手く並びが整うことに気づきました。その情報を共有して、観客席をセッティングしました。

この様子を見ていて、「授業の中でもできるだけ教師の言葉は少なくし、子ども達の主体的な学びを促す」という最近の教育界の方向性を反映していると感じました。子ども達の学習もできるだけ自分たちで考える時間を確保し、積極的に教材に関わっていこうとする資質を育てようと思います。

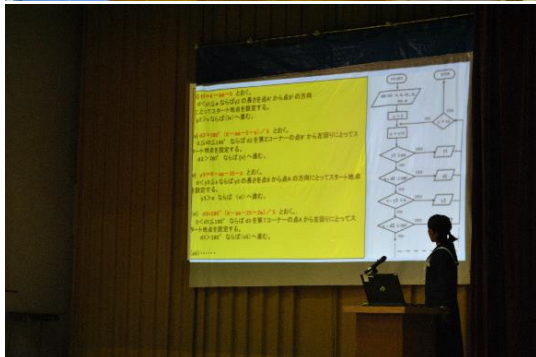
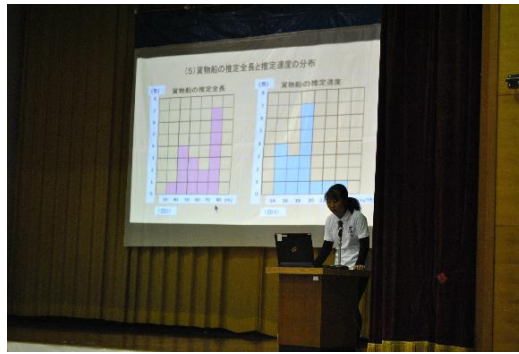


素晴らしい文化祭

令和2年度加唐小中学校と加唐保育所の文化祭を10月29日(木)の午後に行いました。今年はコロナ禍において、体育大会同様例年と異なり、学校と保育所だけの実施になりました。また、授業時数確保の観点から平日開催にし、保護者や来賓の皆様にはご迷惑をかけました。そんな中でも、園児、児童生徒は精一杯の発表ができたと思います。今年のテーマは「一人ひとりの成長」その言葉通り、堂々と発表する子ども達の様子に学校教育のすばらしさと彼らの確かな成長を確認できたことを大変うれしく思います。



学校として、文化祭では日頃の学習成果を保護者や地域の皆様に発表したいと考えています。今回、国語、社会、算数・数学、音楽、体育について、ステージ発表を行いました。小学校低学年の男子児童は、国語の暗唱です。大きな声で堂々と長い文章をきちんと暗記し、聞き取りやすく発表できたと思います。本校において、数少ない男子



男子。たくましさ表現できました。また、ダンスや合唱、合奏でも発達段階に応じた自分たちの役割を果たし、これからの加唐小中学校の伝統を引き継いでくれる素養を感じ取ることができました。小学校4年生～中学校3年生までの女子児童生徒が本年度文化祭をリードしてくれました。各自が担当した発表は、「授業で学んだことをどのように使うことができるか」ということをよく反映していたと思います。社会科や算数・数学科の発表はその内容（「加唐島のなぞ」、「見た！！加唐島から貨物船をスクープ」、「加唐島の極小トラックでコロナ対策」）から学習内容を地域の題材としてとらえ活用したことが明確でしたが、音楽の発表は連弾でした。音楽の専門的な知識はないので、以下は感想です。ソロのピアノ発表は聴いたことがありましたが、連弾となると相手のことを考えて演奏をしなければなりません。相手は音楽の先生ですが、そこに「自分の主張も表現しなければならない。相手に合わせることもしなければならない。」など、考えることは多いと思います。それを文字ではなく音で表現するとなれば、かなり難しいはずですが、いずれにしても、子ども達は授業で習得したことを活用する内容を積極的に披露してくれたわけで、とても誇らしく思えました。



このような子ども達の頑張りは、是非島民の方々にも見ていただきたいと心から思います。来年は新型コロナウイルスの終息を願い、島民の皆様と一緒にできる文化祭を切に希望します。

生きる力

準備の期間もあまりとれない中で、子ども達は今度の文化祭で、その頑張りを十分に発揮してくれました。校長として、予想以上のものが仕上がったことに感動さえ覚えます。またそこには、職員の頑張りがあったことも否めません。子ども達が本校を卒業すれば、環境が一気に変わる世界へ飛び込まなければなりません。また、これからの未来社会そのものが、少子高齢化、情報化、国際化など変化が見通せない複雑なものになることは間違いありません。その中で、学校教育で培ったものが本当に生きてはたらく力となるためには、日頃から学んだことをどのように使えるかということと、困難に出会った時に自己をどう調整していくかということが大切です。学校は、子ども達の可能性を信じて、どのような未来社会に生きようとも、そこに対応できる力をつけることができるよう指導していきたいと思っています。ご理解とご協力をお願いします。